

最新 2024 年 10 月号より抜粋

中華人民共和国成立 75 周年を盛大に祝う！ 国慶節宴会に 400 余名が集う

横浜華僑総会 謝成發会長のごあいさつ

祝宴で中華人民共和国駐日本国大使館 施泳公使のごあいさつ

祝宴での横浜市山中竹春市長ごあいさつ 佐藤広毅市長 代読

盛大に祝賀パレード

出発式での呉江浩大使ごあいさつ

75 周年国慶節パレード・採青 画像特集

慶祝国慶節ゴルフコンペ開催

呉駐日大使主催国慶 75 周年 祝賀レセプションを開催

横浜華僑婦女会敬老会開催

茉莉花女声合唱団が《黄河の歌》 公益 MV の撮影に参加

校友会聯歡会開催

華厨会所 秋の旅行開催

華文教育の「新たな 100 年」を目指して」174

中山・佛山・深圳ひと巡り（上） 楊仕元

中華人民共和国成立 75 周年を盛大に祝う！

慶祝宴会に 400 余名が集う

9 月 30 日、国慶節前夜にあたるこの日、横浜華僑総会主催の「慶祝宴会」が横浜中華街ローズホテル横浜で盛大に行われた。

中国大使館から施泳公使をはじめ、陳巍公使参事官兼総領事、王宝鋒一等書記官兼領事が来場したほか、日本の国会、県会、市会議員、駐横浜韓国総領事館などの代表、京浜地区の僑団代表など多数の来賓と今年の国慶節行事に物心両面で惜しみない多大な支援をしてくれた在日の愛国企業家や広範な僑胞など総勢 400 名以上が一堂に会した。

午後 6 時、羅順英理事の中日二か国語による司会で「慶祝宴会」は幕を開けた。

国歌斉唱に続き、横浜華僑総会謝成發会長が主催者を代表してあいさつをした。その中で謝会長は、横浜華僑総会は引き続き両国が友好平和を発展させ、相互理解を深めていきたいと語った。また、今春日本の国会で入管法が改訂されたことにも触れ、華僑の正当な権益を守っていく覚悟であると決意を述べた。

5 月に台湾地区の指導者に頼清徳氏が就任したことについては、横浜華僑総会は協力団体とともに「一つの中国」の原則に基づき、海峡兩岸の平和的統一の立場を支持する声明を発表したことを紹介した。

続いて、中国大使館の施泳公使が登壇し祝辞を述べた。

施公使は、建国 75 年を迎え祖国は目覚ましい発展をし、わが中華民族は「站起来（立ち上がり）、富起来（豊かになり）、強起来（強くなる）」という偉大なる飛躍を遂げたと語った。また、上海市と横浜市は友好都市として経済貿易と友好交流を深めて来たとし、横浜華僑総会は一貫して祖国を支持し、華僑の力強い後ろ盾としての役割を果たしているとの認識を示した。

日本側の来賓を代表し、横浜市の佐藤広毅副市長が山中竹春市長の国慶節に寄せるメッセージを代読した。

その中で、コロナ禍以降世界に誇る横浜中華街は賑わいを取り戻し、国内外から多くの観光客が戻って来ているとしたうえで、今年は横浜が海外定期航路を上海に開設して160周年の節目にあたり、昨年は両市が友好都市提携50周年を記念し両市の副市長が相互訪問し、両市の共通課題である脱酸素などに取り組んでいく取り決めを結んだことが紹介され、これからも両市、両国の友好の輪を広げ、交流促進、連携強化をして関係の発展につなげていきたいと語った。

続いてこの日臨席された国会議員、県議員、市議員など来賓が紹介された。

乾杯の発声は横浜華僑婦女会の黄巧玲会長が務め、高らかに「乾杯」の掛け声とともに祝杯を挙げた。同時に、横浜中華学校校友会国術団による5頭の獅子が入場し、中央ステージには、謝会長と大使館、韓国、横浜市の代表が登壇し、獅子に紅包をくわえさせた。

続いて、校友会国術団舞踊組が華やかな衣装をまとい「敦煌飛天舞」を披露した。

また、張海倫氏率いるオフィス神業のパフォーマーが、変臉、「歩歩高昇」、双人アクロバット、ローリングバランスなどの中国雑技の妙技を披露し、満場を喝采を浴びた。

祝宴は滞りなく進み午後8時頃、「75周年国慶節実行委員会」の陳宜華委員長が閉会の辞を述べ、翌日に控えた国慶節のパレードを「力を合わせて成功させよう！」と呼びかけ、慶祝宴会はお開きとなった。

この日の祝宴には神奈川県知事をはじめ、多くの僑団、協力団体、企業などから50を超える鮮やかな籠盛りの生花が届き、会場内は一段と華やいだ。



右から佐藤横浜副市長、施公使、謝会長、李沅植韓国副総領事、陳巍公使参事官総領事



あいさつする謝会長



乾杯の発声をする横浜華僑婦女会黄会長



校友会国術団舞踊組



オフィス神業の「歩歩高昇」



陳実行委員長が閉会のご挨拶

横浜華僑総会 謝成發会長のごあいさつ

尊敬する中華人民共和国駐日本国大使館施泳公使
 尊敬する神奈川県文化スポーツ観光局脇坂道裕部長
 尊敬する横浜市佐藤広毅副市長

ご来賓の皆様、議員の皆様、日本の友人、僑胞の皆様こんばんは！

中華人民共和国成立 75 周年慶祝宴会に、お忙しい中、多くの皆様に参加いただきまことにありがとうございます。

中国と日本は切っても切り離せない隣国、中日双方が努力して良いパートナーになるため、華僑総会は引き続き「友好・平和」を発展させ、相互理解を深めたいと思っております。

今年の 3 月 15 日に、「永住者」の在留資格を有する外国人について

日本政府は入管法改定案を閣議で決定しました。これに対し、私たち横浜華僑総会は真っ先に声をあげ、曾徳深顧問が参院法務委員会に参考人として出席して意見陳述をしました。弁護士や議員の方々と日本国政府に強く是正を求めました。声をあげた人の声は決して消えません。

6 月 14 日に参院本議会で可決・成立しましたが、6 月 25 日づけで国連の人種差別撤廃委員会は日本政府に対し、改正法の見直しや廃止措置などに関する回答を求める書簡を送付しました。

2024 年 5 月に台湾の新指導者に頼清徳氏が就任しました。

横浜を拠点に 70 年以上の歴史を持つ華僑団体である横浜華僑総会は、横浜の華僑華人のコミュニティを代表し「ひとつの中国、平和的統一」の立場を支持することを再確認。同じルーツを持ち、歴史的、文化的に深いつながりがある私たちは、戦争ではなく平和を望み、対立でなく交流を望んでいます。これは台湾海峡兩岸の同胞の、平和的発展への願いであります。

7月にはパリでオリンピックが開催されました。獲得したメダルの数は、1位アメリカ・2位中国・3位日本、獲得した金メダルの数ではアメリカが40、中国が40、日本が20
私は日本生まれの華僑2世ですから
日本がほかの国と対戦した時は、日本を応援します。中国がほかの国と対戦するときは、もちろん中国を応援します！中国と日本が対戦した時は…もちろん両方応援します！
先日、深圳で不幸な事件が起きました。亡くなられたお子様とご家族に深い哀悼の意を表します。
明日、10月1日は国慶節です。私たち横浜華僑総会は日中友好の絆のもと、縮小してパレードにのぞみます。
みなさまよろしくお祈りします。
本日はありがとうございました。

祝宴での中華人民共和国駐日本国大使館 施泳公使のごあいさつ

(原文中国語 本紙訳)

尊敬する謝成發会長、尊敬する脇坂道祐部長、佐藤広毅副市長、同胞の皆様、ご友人の皆様、皆様と一堂に会し、共に中華人民共和国成立75周年を祝うことができ、大変嬉しく存じます。中国駐日本大使館を代表して、レセプションにご出席いただきました来賓の皆様へ熱烈な歓迎の意を表します！

また、このレセプションの準備にご尽力いただきました横浜華僑総会に心から感謝の意を表します！

75年以来、中国共産党の力強いリーダーのもとで、中国国内外すべての同胞が一致団結し、弛まぬ努力し、さまざまな困難を乗り越えたことで、中華民族は「立ち上がる」、「豊かになる」から「強くなる」への歴史的な飛躍を実現しました。

先般、開催された中国共産党第20期中央委員会第3回全体会議（三中全会）では、「中国の改革開放の歩みは止まらない」という決心を世界に示し、世界の発展および中日協力で新たなチャンスをもたらしています。

横浜市と上海市は友好都市であり、半世紀以来両都市は経済貿易協力、人文交流などの面において多くの収穫を獲得してこられました。

上海は中国の改革開放とイノベーションの最前線であり、横浜のご友人の皆様は友好都市交流から、中国のダイナミックな対外開放の持続的拡大をさぞより強く実感しているでしょう。

皆様とともに、両国民の相互理解を深め、困難を克服して、健全かつ安定した中日関係の発展を持続的に推し進めていこう、努力していきたいと思えます。

横浜華僑総会は設立以来、祖国の発展をゆるぎなく支持し、海峡兩岸の同胞の一致団結を積極的に促し、中日交流の推進に尽力し、在日華僑界で重要な役割を担ってこられました。

これからもこの素晴らしい伝統を継承し、同胞と各界の友好人士と共に、中日関係の改善と発展に対する更なる貢献を期待しております。

大使館は「人民のための外交」という精神をしっかりと実行し、同胞の皆様の強固たる後ろ盾となり続けてまいりたい所存でございます。

結びに、偉大なる祖国の繁栄を願い、ご列席の皆様のご健勝とご多幸をお祈り申し上げ、私の挨拶とさせていただきます。ありがとうございました！

祝宴での横浜市山中竹春市長ごあいさつ

佐藤広毅副市長 代読

謝成發会長をはじめ横浜華僑総会の皆様、施泳中華人民共和国 駐日本国大使館公使、並びに国慶節祝宴御列席

の皆様、このたびは、建国 75 周年の国慶節、誠におめでとうございます。

ここ、世界に誇る横浜中華街には、コロナ禍以降、国内外から多くの観光客が戻って来ています。

この賑わいは、魅力的なまちづくりに絶え間なく取り組んでこられた皆様の御尽力の賜物であり、改めて、厚く御礼申し上げます。

今年は、横浜港として初めての海外定期航路である上海航路の開設から、160年という節目の年です。また、上海市と横浜市は、昨年、友好都市提携50周年を迎えました。

昨年12月には、上海市の陳傑副市長をお迎えし、また今年4月には、私が上海市を訪問し、龔正上海市長と面会しました。龔正市長とは、今後も様々な分野で交流促進・連携強化を図り、両市の発展につなげていくこと、更に、新たに脱炭素分野においても連携して、両市共通の都市課題の解決を目指すことに合意し、今後5年間の協定書に調印しました。

横浜華僑総会をはじめとする皆様が、これまで大切に育ててこられた温かい友情の輪を、将来の世代にも広げ、これからもみなさま方と御一緒に、両市、両国の友好関係の更なる発展につなげてまいりたいと思います。

結びに、横浜華僑総会様の更なる御発展、御列席の皆様のお健勝と御活躍をお祈り申し上げ、お祝いの挨拶とさせていただきます。

令和6年9月30日

横浜市長 山中竹春



宴会前にスタッフ集合



続々と来場の来賓、会員、会友



国術団舞踊組



張海倫氏の変面



宴会を盛り上げる獅子舞



福島みずほ社民党代表ら来賓多数



施公使（中央）囲んで

【盛大に慶祝パレード】

横浜華僑総会が主催する、中華人民共和国成立 75 周年の国慶節を祝う盛大な慶祝パレードが、10 月 1 日正午から横浜中華街にて行われた。

善隣門をはじめとする中華街の複数の牌楼には、9 月中旬から国慶節祝う横断幕が掲げられ、10 月 1 日の国慶節当日には中華街全域の飲食店や商店の店先には早朝から五星紅旗が掲げられ、街全体が祝日のよごびに包まれていた。

パレード開始に先立ち、「国慶広場」と名付けられた横浜華僑総会前の広場には、午前 10 時すぎから続々とパレードの参加者が集まり、それぞれ趣きのある衣装を身に着けたり、様々な小道具や中日両国の小旗を用意し出発式の開始を待った。

午前 11 時 45 分、「国慶広場」には呉江浩駐日特命全権大使、陳巍公使参事官兼総領事、王宝鋒一等書記官兼領事など大使館のリーダーや、横浜華僑総会、横浜中華学校校友会、横浜山手中華学校家長会、横浜華僑婦女会のメンバーをはじめ、多くの愛国僑胞らで組織された参加団体が整然と場内に並び、張岩松国慶節実行委員会副委員長の司会で出発式が始まった。

まず、主催者を代表して横浜華僑総会の謝成發会長があいさつし、続いて呉江浩駐日特命全権大使がパレード参加者に向け熱いメッセージを発表した。その中で呉江浩大使は、「大勢が集い偉大なる祖国の 75 周年の誕生日を祝うにあたり、このパレードの準備段階から心血を注いでいただいた僑胞と友人に感謝の意と伝え、広範な在日僑胞が祖国の現代化建設に身を投じ、中日友好交流と協力を推し進めて行って欲しい」と語った。

続いて、張岩松副委員長の掛け声で来場者全員が「中日友好万歳！」、「中華人民共和国万歳！」、「万歳！万々歳！」と高らかに唱和すると、出発の合図の爆竹がけたたましく鳴り響き、場内には胸が高鳴る「歌唱祖国」の旋律が流れ、「慶祝中華人民共和国成立 75 周年 中日国交回復 52 周年」と書かれた紅い横断幕を先頭にパレードは「国慶広場」を出発し関帝廟通りへと繰り出した。

横浜中華学校校友会国術団舞踊組による民族衣装を着た舞踊隊が軽やかな踊りを披露する隊列がその続き、そのすぐ後ろに羅紹威理事が旗手を務め高らかに掲げられた巨大な「五星紅旗」が 10 数名からなる国旗護衛隊に守られ威風堂々と行進した。その後方には呉江浩大使と謝成發会長をはじめとする大使館関係者と華僑総会の役員などが続いた。

今年の国慶節パレードでは、中国文化の紹介と中日友好の増進をテーマに掲げ、おなじみの獅子舞い、龍舞い、そして腰鼓や秧歌などの民族伝統舞踊、56 の民族の衣装や唐装漢服を着たチーム、西遊記の登場人物に扮した装束を身に着けた者や、中日両国の小旗、赤いハート型の風船を手にした僑団のメンバーなど、総勢 32 団体、約千人の参加者が「中日友好万歳！」、「中華人民共和国万歳！」と唱えながら行進すると、沿道からは温かい拍手と声援が返ってきた。

「国慶広場」を出た隊列は関帝廟通りの「地久門」を抜け、福建路を経由し西門通りに入り、善隣門から中華街大通りへと進み、南門シルクロードを経て、「天長門」から再び関帝廟通りに戻り、中華街を一周し出発地点である「国慶広場」に戻った。

パレード出発前には小雨がぱらついていましたが、正午に行進が始まると雨はパタリとやみ、パレードが終了する頃には空を覆っていた厚い雲は徐々に晴れ、青空が広がった。

「国慶広場」に戻った多くの参加団体のメンバーたちは、しばらく場内に留まり、パレードが無事に終了したことを喜び合っていた。

建国 75 周年の国慶節を迎え、横浜中華街は在日僑胞の熱い思いに満たされ、中日両国友好交流の機運は一層盛り上がった。

この日、午後三時から横浜中華学校校友会国術団による四隊の獅子舞いチームが中華街全域に繰り出し「採青」を行い、街の繁栄と商売の繁盛を願った。

出発式での呉江浩大使ごあいさつ

各位同胞，各位朋友：

很高兴在金秋时节，与大家相聚在此，共同庆祝伟大祖国 75 周岁华诞。我谨代表中国驻日本使馆向精心筹备此次大游行的有关方面和人士致以衷心感谢！向参加和支持今天大游行的侨胞们，朋友们表示热烈欢迎！

75 年来，在中国共产党的坚强领导下，中国从温饱不足迈向全面小康，从积贫积弱迈向繁荣富强，创造了人类发展史上的伟大奇迹。回望过去，广大在日侨胞始终心系故土、情牵桑梓，与祖（籍）国相依相伴，同向同行，为祖（籍）国建设、中日两国交流合作作出重要历史贡献，横浜中华街正承载着在日华侨华人奋斗历程中的家国心声和历史记忆。

新征程上，中国共产党的二十届三中全会发出了为全面 建设社会主义现代化强国，全面推进中华民族伟大复兴而团结奋斗的伟大号召。展望未来，在日侨胞投身中国式现代化建设的前景更光明，推动中日交流合作的领域更加广阔。希望大家继续以侨为“桥”，展侨所长，续写支持中国式现代 化建设，促进中日交流合作的侨界新篇。

“行而不辍，未来可期”，即将开始的国庆大游行寄托着我们对伟大祖（籍）国美好祝福和两国交流合作的期望。让我们共同祝愿，大游行活动圆满成功！伟大的祖国繁荣昌盛！



左：出発式にのぞむ呉大使と謝会長



曾徳深顧問とともに歩む呉大使



五星紅旗を先頭に進む儀仗隊

75周年国慶節パレード・採青 画像特集



国慶広場で出発にのぞむ参加者



パレード出発



民族衣装隊



沿道の観客に笑顔を振りまく参加者



子どもたちの頭をかじる獅子



家長会の女子龍舞



家長会の男子龍舞



山手中華学校の横断幕



中華街大通りを行く五星紅旗



二胡・三弦・吹管鼓隊



日本漢服社の漢服



(一社) 吉林総商会



日本青少年文化芸術交流協会の舞踊



龍在日華人援助協会の民族衣装



校友会舞踊組の民族舞踊



国慶広場で秧歌舞を披露



(一社) 吉林総商会の秧歌舞



腰鼓舞



日中友好俱樂部



横浜華僑総会会員隊



民族衣装隊



日中国旗隊



中華街の店々で繰り上げられる採青





上：中華街での探青 下：4隊が山下町公園に集合



慶祝國慶ゴルフコンペ開催

9月25日PGM南市原ゴルフクラブにて毎年恒例のゴルフ大会を開催した、今年は9組36名が参加しラウンドを楽しみ親睦を深めた。

あいにく雨まじりの天候ではあったが連日の夏日ではなく秋らしい気候の下楽しいひと時を過ごし、中日友好を実感した1日となった。

新ペリア方式

優勝 鄭師杉

準優勝 矢崎秀珍

第三位 程肖梅

ベストグロス 松山明

(福利部)



呉駐日大使主催國慶75周年

祝賀レセプションを開催

9月26日、呉江浩駐日大使と丁玥夫人は東京のホテルニューオータニで中華人民共和国成立75周年祝賀レセプションを開催した。

これには日本の政財界、友好団体の代表、110カ国余りの駐日使節および日本各界の人々、在日華僑華人、中国資本機関、留学生の代表ら約1600人が出席した。

横浜からは華僑総会楊文恵、朱銘江副会長、李悦事務局長代理、曾徳深顧問、繆雪峰理事（山手中華学園理事長）、張岩松理事（山手中華学校校長）、黄巧玲理事（華僑婦女会会長）などが出席した。

呉大使は新中国が成立してから75年、特に新時代に入ってから、中国人民が強国建設、民族復興を実現する新たな征途において収めためざましい成果を振り返った。また、中日両国関係については、双方は四つの政治文書の精神を厳守し、両国指導者の戦略的互惠関係を全面的に推進することに関する重要な共通認識（コンセンサス）を実行し、新時代の要請にかなう建設的、安定的な中日関係の構築に共に尽力すべきだと述べた。



少数民族衣装の参加者と呉大使夫妻

横浜華僑婦女会敬老会開催

(一社) 横浜華僑婦女会 (黄巧玲会長) は、9月9日(月) 正午より、婦女会館3階にて敬老会を開催した。去年は台風接近で中止となったが、今年は晴天に恵まれ、実に5年ぶりの開催となった。総勢41名の会員が集まり、多年にわたり社会に尽力してきた婦人の長寿を祝福し、健康を願う、盛大で賑やかな会となった。

黄会長のあいさつの後、長寿祝い対象者が紹介された。今回の対象者は、101歳の方が2名、90歳(卒寿)の方が1名、80歳(傘寿)の方が4名で、その内出席した80歳(傘寿)の符順和氏と梁喜美氏に、花束とお祝いの品が贈呈された。なごやかな様子に、会場はあたたかい拍手でいっぱいになった。また、今回出席が叶わなかった対象者の方々には、お祝いの品とお弁当を直接お届けし、久しぶりの元気なお顔を拝見できた。

その後は、福利部を中心に3日かけて仕込んだお弁当を、会員同士歓談しながらいただいた。見た目も美しく、昨今の原材料高騰を感じさせない、華やかで愛情が込められたお弁当の美味しさに箸が進んだ。

会員の張雅齡氏による、扇を使った華武扇(カブセン)と、剣を使った32式太極剣の披露で拍手が沸き起り、同じく会員の磯一加氏の指導による経絡体操(ケイラク体操)は全員が参加し、身体が整い笑顔が絶えぬ空間となった。

最後に、会員の潘蘭英氏の指揮で、『大海啊故郷』を歌い、美しいハーモニーで会はお開きとなった。

久しぶりに開催された敬老会は、会員同士の交流ができる充実した時間となった。これからも皆さまご健康で明るくお過ごし下さるよう、お祈りしたい。(横浜華僑婦女会)

茉莉花女声合唱団が《黄河の歌》

公益MVの撮影に参加

中華人民共和国成立75周年と《黄河大合唱》初演85周年を記念し2024年にピアニストの郎朗氏が始め、世界中の百の華人合唱団が新時代の《黄河の歌》を歌いあげる公益MVの撮影が完了し、まもなくリリースされる予定。

去る8月25日、京華楽坊芸術学校のご協力のもと、茉莉花女声合唱団と華楽坊国際児童合唱団二団体の有志団員が在日華人華僑合唱団の代表として、横浜の観光名所である山下公園で撮影に参加した。9月に30秒の予告編が既に公開されており、正式版近い将来に世界中で公開される。

《黄河の歌》公益MV(ミュージックビデオ)の撮影活動は、河南省帰国華僑連合会の指導のもと、黄河博物館と河南省放送テレビ局の主催で行われた。本プロジェクトは、「黄河の歌」文化プロジェクトの発起人である呉雨橋氏が総合プロデューサーを務め、中国香港の著名な音楽家林健華氏が作詞・作曲を担当し、ハンガリー・ブダペスト交響楽団がオーケストラ伴奏を行っている。作品は世界中の華人華僑が母なる川である黄河に対して抱く無限の愛を表現している。

(茉莉花女声合唱団)

校友会聯歡会開催

8月24日(土)、毎年恒例の横浜中華学校校友会主催の聯歡会が開催されました。来場者は総勢1000人を超え、校友生をはじめ、母校中華学園の生徒・児童、家長や学校関係者など多くの方にご来場いただきました。

文芸は、中華学校の生徒による獅子舞・舞踊・民謡楽器・武術やダブルダッチ部による演技が披露され、若さと活気あふれるステージで来場者を魅了しました。また、国術団からも獅子舞と舞踊の演技が披露され、力強い演技と迫力あるパフォーマンスで観客を楽しませました。

模擬店ブースでは、横浜山手中華学校家長会・熊貓幼稚園家長会・横浜華僑婦女会の皆様と共に、校友会によるドリンク販売や子供向けのゲームコーナーが設けられ、年代を問わず大変盛り上がり、楽しい時間を過ごして頂けたと思います。

そして今期新たに就任した安齊会長より挨拶があり、校友会を代表し、母校へ寄付金30万円を贈呈しました。

例年に負けずとも劣らぬ賑わいの中、最後に大抽選会を行い大盛況のなか無事に閉会いたしました。

最後に、聯歡会にご来場頂きました皆様、そして開催にあたりご協力頂いた横浜山手中華学園・横浜山手中華学校家長会・熊猫幼稚園家長会・横浜華僑婦女会ならびに物品協賛して頂いた中国貿易公司・協和物産の方々にはこの場をお借りして厚く御礼申し上げます。（校友会）

華厨会所 秋の旅開催

京浜華厨会所は10月15日（火）、16日の2日間、若い新任理事2名を加えた総勢32名が松本城、上田城、ワイナリーを巡る、長野、諏訪、軽井沢方面へと向かった。

3連休後にも関わらず行楽シーズンとあり行く先々人で溢れ、「天気良ければ旅の半分は成功」と言われる暖かな秋の日差しに包まれたバス旅行を楽しんだ。

お泊りはちょっと贅沢に加賀屋を設計した山本勝建築設計室が手掛けた諏訪湖畔の「浜の湯」さん。泉質のよい豊かな湯と次々に運ばれる料理に心身はいやされた。

この旅行は会の定例行事となっているが、50歳の年齢差があっても皆和気あいあい、バスガイドさんからも「みなさま、ほんとに仲が良い。面倒も起こさず、たいへんいいお客さまです」とおほめいただいた。（華厨会所）



華文教育の

「新たな100年」を目指して 174

展覧会開催

9月20日～21日、2年に一度の展覧会が開催された。全校生徒が力を合わせ、入念に準備し、心を込めて完成させた素晴らしい作品をデザインし、展示した。作品は、生徒たちの学習の成果が凝縮されているだけでなく、保護者や来賓の方々と分かち合うための収穫の結晶でもあり、本校の教育の成果と生徒たちのスタイルを生き生きと示した。

展覧会の主な目的は、生徒の思考力と実践力を鍛え、自信とチームワークの感覚を養うと同時に、学校の教育理念と教育成果を外部に示し、学校と家庭や地域社会との交流を促進することである。

展覧会を円滑に開催するために、全校の教師と生徒は早くからタイトなスケジュールで準備作業を開始し、すべてのクラスと単位は整然とした態度で熱心に作業を進めた。保護者や来賓の便宜を図るため、本校は「2024年度生徒の成績展覧会案内図」を作成し、電子スクリーンを通して放映した。同時に、保護者はQRコードをスキャンし、オンラインで意見や提案を記入することができた。展示は、小学部はクラス単位、中学部は科目単位で行われた。生徒全員がブレインストーミングを行い、斬新さ、内容の豊かさ、独創性、鮮やかさを追求しながら、それぞれの作品を作り上げた。展覧会は2日間に分けられ、22日は教師と生徒が学校を訪れ、23日は生徒の保護者が学校を訪れた。この2日間の展覧会では、生徒たちの成果や色彩豊かなキャンパスライフが総合的に紹介され、学校全体の積極的で革新的な精神が示された。

この2週間の準備と発表の苦労は、生徒たちに発表と分かち合いの楽しさを味わわせてだけでなく、アイデアから実践に移る過程での達成感と満足感、そして自分自身への深い理解と発見を与えた。本展覧会が生徒の内なる学習意欲を刺激し、「学びたい」から「学びたい」に変わる良いきっかけを作るのは、生徒の「脳・手・口・感情」の相互促進・統合によるものである。生徒たちは「学びなさい」から「学びたい」に変わる良い機会を得た。2日間にわたる展覧会の間、生徒たちの素晴らしい作品とパフォーマンスは、その場にいたすべての人に深い感動を与え、保護者や来賓の方々の満場一致の賞賛を得た。生徒たちが示した熱意と風格は、保護者たちからも高く評価され、高く評価された。これは間違いなく、本校の教育の成果を全面的に肯定し、激励するものである。この展覧会の成功は、すべての教師と生徒の団結と共同努力、そして保護者と地域社会の配慮と支援と切り離すことのできないものである。本校の展覧会がますます素晴らしいものになることを信じています！

(山手中華学校)

中山・佛山・深圳ひと巡り（上）

楊仕元

この度、中山郷友会企画の、広東省は中山市、佛山市、深圳市を巡る四泊五日の旅に因らずも参加することに相成りました。一行七人は後期高齢者五人という老人部隊となり、行動はおのずと緩慢にならざるを得ない。旅の目的は、ルート探しの機会に恵まれなかった人方に、現地の自然環境や生活環境、近年の経済の発展ぶりを見知ってもらおうと、或いは広東語会話の勉強の成果の腕試し、さらには食文化について身をもって体験してもらいたいというものでした。当初、渡された計画書には孫中山記念館、林則徐記念館等、清暉園、梁園等有名な庭園ほか盛りだくさんの参観したい所が詰め込まれていたが、しかし、実際にはほとんどが幻と消え、結果的に豪華な(?) 美食の旅になってしまいました。これはこれで十分に楽しめて、不満を口にすることは誰一人いなかった。

三月三十一日朝八時半、羽田空港に全員集合し、十時前後の便で香港へ向かい、現地時間の午後一時半頃国際空港に到着。税関を出てすぐにタクシー二台に分乗し、港澳珠大橋を走り抜けて、珠海税関で入境、引き続きタクシーに分乗して、中山に着いたのは午後四時半頃でした。夕食は中山で最高級・最豪華と言われる料亭『香山家宴』で取るようになった。ここは荔景苑という大院の百メートルほどの通路の一番奥まったところにある、百十余年前に建てられた古い屋敷を改修した古色ゆかしい建物である。他のレストランとは少し趣が変わっていて、テーブルに着いてもメニューの菜譜が置いてあるわけでも持ってくるわけでもなく、紙と鉛筆を持って裏の生け簀へ行き、材料と調理法を指定するという、海鮮料理店に似た形式になっている。まずはスープ(湯)、広東では「無湯不成餐、無鶏不成宴」と言われるほど、毎食必ずスープが付く。この例湯は、無色透明ではないものの濁りなく、ねっとりして舌触りはさっぱり、そして香ばしい。具材どうしはケンカせず、見事に調和してなおそれぞれの味を主張している。後で大皿に山のように盛られた具材を見ると、十種は下らなかった。

清蒸生蠔(カキ)は大振りながら歯触りよく、生とはひと味もふた味も違って、すこぶる付きの美味。妙齡乳鴿は言うまでもなく、中山の一大名物。超級大煎堆(夜明珠芝麻球)はどこかの店先で見たような気もしたが、座席の前に置かれたバスケットボール大の偉物を目にすると、さすがにどれほどの大口を開ければかぶりつけるか、心もとなくなる。スタッフがハサミで、ひと口大に切ってくれたので、余計な心配だったか。口に入れると、少し肉厚に感じはしたが、紛れもなく煎堆でした。

旅の初日の夕食がこれほどのインパクトがあったので、充分満足した後は宿泊先のヒルトンホテルにチェックインしました。

翌四月一日の朝、朝食はホテル三階のレストランで早茶(飲茶)をいただくことになりました。朝粥はもちろん欠かせず、各自の好みの軽食・点心を注文し、分け合いながら十分に堪能した。食後、孫中山故居と同記念館を訪れ、自由見学した後、昼前に中山海外聯誼会を訪問し、聯誼会副会長はじめ中山市僑務局の中山僑刊社社長、編集長らと懇談する機会を得た。その後、悦善長江美食城へ昼食に招かれた。ここで一品だけ挙げるとすれば、「清蒸魚」を外すわけにはいかない。蒸魚は、蒸すほどに生でなくなった瞬間が最適で、蒸しすぎると肉は締まって固くなり、最悪の場合ボソボソの食感しか残らない。最高の蒸魚は、口の中で肉片が一枚一枚ホロリと外れるように舌の上をスルリと滑るような滑らかさになる。粵菜ではこれを「滑」と表現する。

午後、中山市博物館及び中山華僑歴史博物館に案内され、華僑歴史博物館では世界各国、各地の中山華僑から収

集された物品、文書などの資料が整理・展示されているものを見て回り、横浜から寄せられたものも確認できた。今後、より一層充実していくものと期待される。

この後ホテルへ戻って五八階のイタリアンレストランで夕食を取ることにになり、併せて同行メンバーの一人の誕生日をも祝った。この席でたまたま長老の一人の一言、曰く、広東語はできないが、幼い頃に聞き覚えた只一つ「サイチウサン」の意味は？と言うので、私はとっさに、それは「西樵山」であると覚った。私も幼少の頃、大人たちの会話の中で時おり登場する「西樵山」はさぞかし素敵な所だろうと妄想して、脳裏に独りイメージを思い描いていたものでした。長老の故郷である佛山市南海区の南西部にあること、またあこがれの地で行ってみたい気持ちも手伝って、是非とも行った方が良くと薦めたところ、即決！こうして、旅の日程に新たな行く先が一つ加わった。

四月二日朝、朝食抜きで中山市南区の工業団地にあるG E社を訪ね、LED（発光ダイオード）を生産する工場を見学することになった。社員食堂で朝食のお世話になり、各人窓口で好きなものを注文し、私は「三鮮炖鶏湯麵」を食して、同社の社員に対するサービスの一端を窺うことができた。LEDは照明器具であることを何方も承知しているが、ダイオードの製作過程で、アルミニウム、ガリウム、インジウムなどの金属をさまざまに組み合わせて加えることにより、それこそ赤から紫までの七色以上の光を発出させるようになり、形も丸い粒から数珠状、紐状、ある広がりを持った思い通りの形状に作る事ができる。内装、外装のデザインに使えることも、この見学で理解できた。

少し話がそれるが、会社紹介に案内された会議室の入り口わきに気になる人物像が立っていたので、近寄って説明を見ると、それは春秋時代の越王、勾踐の英明な臣下范蠡（ハンレイ）であった。紀元前四九三年、呉越両国の会稽での戦いに越は呉に敗れ、越王勾踐は妃ともども呉王夫差の奴隷となり、范蠡もこれに付従った。あらん限りの屈辱を耐え忍んで三年、許されて越に返された勾踐は、「臥薪嘗胆」（有名ですね）、苦節二十年、国力を増強した後ついに呉を滅ぼして、報復の大願を成就する。この時、范蠡は勾踐という男とは患難を共にすることはできても安楽を共にすることはできないと見定めて、その前から姿を消す。越から遠く離れた斉国の海辺まで逃れた范蠡は、名を変えて商いを始め、一度は財をなすが、そこを捨てて居を変え、再び成功を収めるもさらに転居し、最後に山東の定陶の地に落ち着き、巨万の富を築いて、世に「陶朱公」と称されるようになった。後世では「商聖」とも「首富」とも尊称され、大局観と先見の明を持った彼の経営思想は「経商十八則」として後人によって纏められている。范蠡から陶朱公に至るこの故事は、司馬遷の「史記」にも記載されており、現在の中国においても企業経営者から崇められていることを、G E社の参観から垣間見ることができた。

閑話休題。工場見学の後十時半頃、一路佛山市順徳区大良鎮へ向かい、正午前にわが一族の姪子の店の前に到着、ひなびた農家の離れのようなところへ案内され、昼食を取ることにになった。通勤・通学で都合のつかなかったものを除いて二十人ばかりが集まり、皆元気でいたことに安堵した思いであった。以前から流行りになっている「農家私房菜」を味わうことに相成り、店の調度や器皿、それに料理の盛り付けなど、一流レストランには及びもつかないが、素朴そのもの、しかし、味はそれこそ絶品中の絶品で文句なし。俗に「食在広州」というが、実はその後「厨（師）出鳳城（順徳）」、さらに「味在勒流（大良に隣接の鎮）」と続く。ヒンシュクを買うのを覚悟で故郷自慢を少々してしまっただが、何卒お目こぼしのほどを。

昼食の後、親戚一同に別れを告げ、午後二時半に佛山・禅城区へ向けて出発した。三時半には佛山嶺南天地康得思酒店に到着、チェックインして暫らく休息した後、佛山祖廟へ出掛けた。祖廟には「黄飛鴻記念館」、「葉問堂」、「孔廟」といった建物、武術関連、文教関連施設などがあり、ここを訪れるのはこれが二度目だが、前回入らなかつた「葉問堂」を今回はゆっくり見ることができた。

祖廟に向かって左側には、佛山美食街トップ3の二番目に数えられる「飛鴻街」があり、二百メートルほどの歩行者道の両側には、「舞獅」用具専門店と土産物店の二三を除くと、ほとんど飲食店がびっしり並んでいる。道の片側は、机椅子数脚置いた半露店形式の軽食・スイーツ店、反対側は祖廟を背にした「騎楼（二階以上が歩道に突き出ている南方特有の建物）」が並び、「十三姨（黄飛鴻の妻）」、「陳氏盲公丸」といった屋号の老舗レストランが軒を連ね、ガラスの扉越しに中を覗くと、結構な客の入りが見えた。道の中ほどに「黄飛鴻記念館」の出入り口があり、祖廟の中に通じていた。スイーツ店の中に「双皮奶」を売っているのを見つけ、順徳特産の名物を久し振りに味わった。発酵乳と異なり、水牛の乳を手の込んだ手法で煮ることで程好く凝固させた、ほんのり甘く優しい味、洋ものが入る以前からあった名品である

（次号につづく）